

佐田 達典 教授 (教室主任)

建設会社に勤めていたときに、インドネシアで測量の仕事をしたことがあります。いまは日本測量協会の月刊誌「測量」の編集長をしていて、「世界を駆ける測量人」というコーナーでは海外で活躍されている方を紹介しています。どの会社でも海外で仕事をしないところはありません。皆さんが活躍できる場は、国内だけではなく世界中に広がっています。



福田 敦 教授

学生のときはまだドル高で、なかなか海外へ行く機会がありませんでした。博士号を取って助手になってから2年間(1989~1991年)、タイにあるアジア工科大学で教えた経験があります。その後はタイだけでなく、東南アジアのプロジェクトに関わる機会が多くなり、これを自分の専門にしようと決めて、海外の交通システムについて研究しています。

私たちが
聞きました

西園 知哉 2年

交通まちづくり工房国際まちづくりプロジェクトに所属。データの解析方法を勉強しています。

富山 晃穂 4年

3年生のときにタイでワークショップをしました。卒業研究のテーマは、ベトナムでのバス高速輸送システム(BRT)の導入効果です。

四十物 賢人 2年

E.S.S.(英会話研究会)で日々、英語を勉強中。夏休みにはケンブリッジ大学に短期留学予定です。

岡野 那津美 3年

国際関係に興味があるので、これを機に海外についてもっと勉強していきたいです。

Q1

海外で活躍するためには、どのような能力が必要ですか？



皆さんは海外で働くという「まずは英語」と思うのですが、必要とされているのは「技術」なので、交通の技術をしっかりと身につけることが大事です。いくら英語が上手くても、技術がなければ必要とされません。その上で、できればコミュニケーション・スキルがあったほうが良いです。海外で働くには文化の違う人たちと仕事をしなければならないので、お互いの価値観や考え方の違いを理解しながら、チームで仕事ができるような能力が必要です。(福田)

A



Q2

海外で仕事をするには、やっぱり英語が必要ですか？



もちろん、基礎的な語学力は必要です。海外で働くとなると、英語で話す力はもちろんですが、書く力も必要です。英語でレポートが書けなければ仕事になりません。交通システム工学科では、そうした能力を鍛える授業も展開しています。(福田)

A



Q3

どうすれば英語が上達しますか？



自分の専門分野の論文を英語でしっかり読むようにすると、専門用語が頭に入りますし、表現が身につきます。たくさん文献を読むと、交通分野であれば交通に関連する同じ単語が出てきますから、すんなり入ってくるようになります。(佐田)



A



タイに教えるに行く前の1カ月間、毎日8時間ぐらい勉強しましたが、行ったとたんに「ダメだ」と思いました。タイでは授業が終わると毎晩みんなで飲みに行って、話したり聞いたりするうちに上手くなりました。聞けるようになると、話せるようになります。昼間は空き時間に図書館にこもって論文を読んだり、講義の準備をするために本を読んだりしていました。とにかくものすごい量を読むと、書けるようになります。(福田)

Q4

海外で活躍できるようになるために、交通システム工学科にはどのような授業がありますか？



科学技術英語Ⅰ・Ⅱでは、交通システム工学科の教員と一般教育の英語教員とが相談して、独自の内容で英語の授業を行っています。とくに科学技術英語Ⅰでは、Skypeを使って海外の大学生とオンラインでやりとりしながら英語を学んでいます。さらに国際コミュニケーション論、English CommunicationⅠ・Ⅱと併せて5科目を受講すると、英語のコミュニケーション・スキルが高められるようになっています。交通システム工学科には「エンジニアリングコース」と「マネジメントコース」がありますが、「マネジメントコース」は海外で活躍するエンジニアの育成を念頭に置いていますから、国際開発援助論という科目も設置し、海外の国々、とくに途上国についての最低限の知識が得られるようになっています。(福田)

A



A

交通システム工学科では2年に一度、海外研修を行っています。これは正式な授業として開講していて、単位がつきます。毎回、違う国に行って現地で2週間ほど勉強し、最後にレポートを提出します。(佐田)

Q5

授業以外に、国際交流ができるような取り組みはありますか？



理工学部の「未来博士工房」には9つの工房がありますが、そのひとつが交通まちづくり工房です。その中に国際まちづくり班があり、低学年から海外に行って現地の大学の学生や先生方、そして地元の人たちと一緒に活動します。外国語の習得というのは、モチベーションがすべてです。海外に行って友達ができて、自分の伝えたいことが伝えられないもどかしさを感じたときに、切実に「言葉を覚えたい」「自分の考えていることを相手に伝えたい」と思うはず。だからこそ、そういう機会を皆さんにつくってあげたいと思っています。また、日本大学本部で行っている短期海外研修にはケンブリッジ大学で行うサマースクールもあり、素晴らしい環境で英語の勉強ができます。(福田)

A

